

第五部

交通・通信・土木編

第一章 交通

一 交通圏域

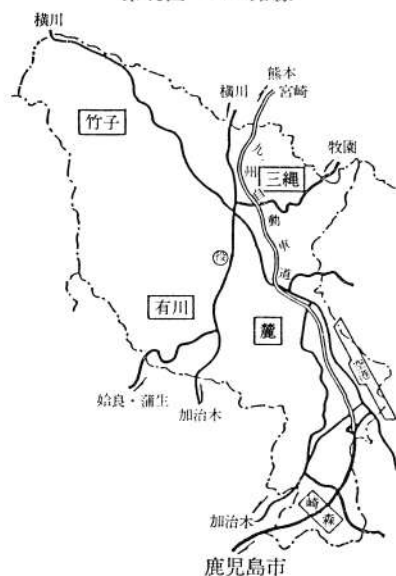
昭和四十七年鹿児島空港が開港して以来、九州縦貫自動車道の完成と、県内各地と空港を結ぶ地方道の整備が漸次進められ、県都鹿児島市や、県内及び南九州近接市町村との距離短縮と時間短縮がはかられてきた。

輸送機関としては、空港と鹿児島市を結ぶ一〇分間隔の空港バスが、所要時間五〇分で運行されている。また、県内及び南九州主要都市と空港を結ぶ路線も開設され、空港利用者の利便をはかられている。一方、地方道バスは、自家用車の普及で乗客が激減し、年々運行回数も減便されている。溝辺（空港を含む）発着・経由のバス運行状況は次のとおり。

往復便数 ▽鹿児島九一▽鹿屋八▽志布志六▽川内八
▽霧島一四▽国分・隼人一二▽大口・横川・加治木・始良二九▽一般定期バス一八
ちなみに、空港県営駐車場の昭和六十二年度の利用台

第46図 バス路線

バス名	区 間	便 数
南国バス	空 港～隼 人	7 往復
〃	溝 辺～鹿児島	17 往復
〃	空 港～鹿児島	37 往復
鹿児島通交	空 港～鹿児島	37 往復
〃	空 港～鹿 屋	8 往復
〃	空 港～志布志	6 往復
林田バス	空 港～霧 島	7 往復
〃	空 港～隼 人	5 往復
南国バス	空 港～川 内	8 往復
〃	大 口～横 川	29 便
〃	空 港～霧 島	7 往復



数が年間六八万三〇〇〇台、空港関係業務用の駐車台数

が一日六六〇台と算定し、送迎用の車などを想定すると
 利便の増大とともに交通量の増加も大である。

二 交通量の変遷

自動車の保有台数の推移は第130表のとおり。

第130表 自動車数の変遷

種 別	昭50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
普通乗用車など	8 882 2	12 1,223 2	11 1,206 2	12 1,555 2	13 1,733 2	14 1,896 1	14 1,984 1	14 2,027 1	21 2,090 1	21 2,076 1	23 2,049 0
バス	1,017 21	1,044 21	1,058 22	1,073 22	1,086 24	1,093 43	1,143 49	1,126 44	1,109 41	1,108 40	1,092 45
乗用貨物車	1,930	2,302	2,299	2,664	2,858	3,047	3,191	3,212	3,262	3,246	3,209
軽乗用車	227 296 506 132	226 326 478 250	192 376 473 294	189 437 534 322	161 505 552 319	166 624 630 315	166 716 703 312	138 860 801 323	126 1,003 888 320	124 1,137 1,014 322	139 1,281 1,063 318
計	1,161	1,280	1,335	1,482	1,537	1,735	1,897	2,122	2,337	2,597	2,801

三 県道・町道の現況

(一) 県 道

町内を走る主要地方道の栗野～加治木線、鹿児島空港

線、および一般地方道の隼人～加治木線、隼人～溝辺線、有川～蒲生線の五路線については、全線改良済みとなっている。

その他の一般地方道については、道路特殊改良事業により、部分的に改良促進中である。特に北薩地域と空港

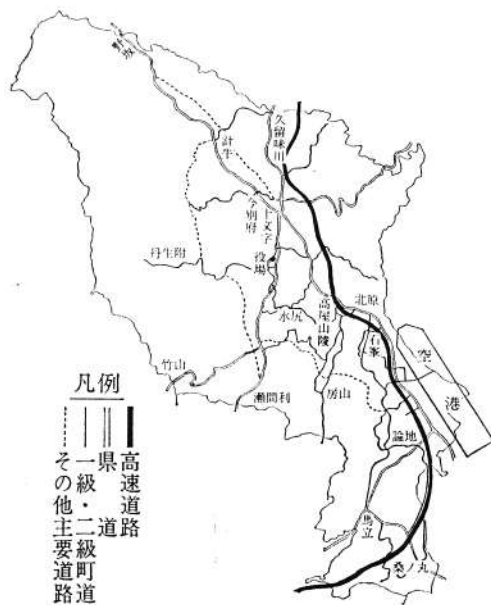
第131表 県道（主要地方道）の整備状況

(昭和60年4月1日現在) (単位: m)

路 線 名	延 長	改良済	未改良	舗装済	歩道延長
栗 野～加治木線	7,580	7,580	0	7,580	3,041
鹿 児 島 空 港 線	1,597	1,597	0	1,597	1,258
十文字～永 野 線	7,647	4,740	2,907	6,340	891
隼 人～加治木線	4,651	4,651	0	4,651	190
崎 森～隼 人 線	2,410	306	2,104	2,410	85
隼 人～溝 辺 線	3,864	3,864	0	3,864	3,534
今別府～牧 園 線	3,670	930	2,740	2,974	0
有 川～蒲 生 線	2,959	2,959	0	2,959	0
計	34,378	26,627	7,751	32,375	8,999

を結ぶ唯一の路線として期待される十文字～永野線は、交通安全施設整備事業と県単道路整備事業のセット事業で改良され、昭和六十年代から施行の緊急地方道路整備事業によって、昭和六十二年完成の予定である。

第47図 町 道 網 図



(二) 町 道

町道は、一級一四路線、二級一〇路線、その他六四路線の八八路線があり、主要集落と各集落を結ぶ道路網を形成しており、全延長が一三二・八歳で、舗装率二九・一割となっている。

これらの町道の大半は、一車線で幅員も狭く、幅員三三・五才未満の延長が、四七・三歳もあり、全体の

三五・六割を占めていることから、市町村道整備事業などにより、年次的に改良舗装を進めている状況である。地域別にみると、舗装率は一・二級町道で北部地域が七四・二割、その他地域が六〇・八割と町平均より高いのに対して、南部地域は一六・六割とかなり低くなっている。

(三) 町道以外の道路

集落道等の町道以外の道路は、総延長が一八・九歳あり、舗装率が一四・五割となっている。幅員については三・五歳未満が全体の五六・五割に当たる六七・二歳である。地域別の幅員三・五歳未満の道路は、北部地域が六六・一割、南部地域三九・五割、その他地域が六九・七割となっており、南部地域は、町平均より低い値で、他地域よりも幅員は恵まれている。

廃線の鉄路は錆びて子供等の交々遊ぶ三月過ぎたり

(石原) 町田良夫

かつては通勤通学の足としてその存在を誇った国鉄である。しかし過疎と自家車の増加に伴い乗客の激減は止まるところを知らず、ついに廃線となり鉄路はさびつき

今では子供達の格好の遊び場となっている。時代の流れには抗しきれない現実である。

第二章 通 信

一 郵便

町内には現在集配特定局一、簡易郵便局三局があり、地域に対応した業務が行われている。集配特定局の溝辺郵便局は、鹿児島空港開港に伴い空港所在地の郵便局としての機能を十分發揮するため、これにマッチした新しい郵便局づくりが必要ことから、昭和四十八年五月二十八日、町の中心地県道五五号線沿いの溝辺町有川二九九番地一に、局長花堂三男によって近代的な鉄筋コンクリート造り局舎が建てられ、同年六月一日から業務取扱いを開始した。

昭和五十年代に入り世界的景気停滞と国内経済の低迷、民間企業との競合など、急激な流れの中で、郵政事業も大きな試練を受けることになった。

五十八年以降郵便のよりスピーディーな送達と効率の高い輸送システムへの大改革を行った。五十九年二月一日からは、溝辺郵便局―加治木郵便局―鹿児島中央郵便

局を直結する輸送体系を敷き、県内翌日配達完全実施の体制が整った。また六十一年十月一日からは、全国的に鉄道郵便が廃止されて鉄道による郵便の輸送は完全に姿を消し、すべて航空機、専用トラック便への転換がはかられ、全国的に翌日配達、あるいは翌々日配達の完全実施が制度的に取り入れられることになった。

今後の郵政事業は、ただ単に郵便、郵便貯金、簡易保険、郵便年金事業を通じて、顧客に対応するだけでなく、情報化時代にマッチした情報収集拠点として、地域コミュニティセンター的な役割を担い、深く地域とのかかわり合いの中で、その機能を最大發揮するものでなければならぬ。

1 溝辺郵便局歴代局長

四代 花堂三男 昭和39年6月30日～50年11月28日

五代 東 繁 昭和51年3月17日～62年6月23日

六代 隈元為次 昭和62年6月23日～現在

2 溝辺郵便局開局以来の歩み

昭和48・6・1 溝辺局新庁舎業務取扱開始

49・10・1 鹿児島空港簡易郵便局(受託者・上野

喜一郎)開局、溝辺町内に簡易郵便局

三局となる。

58・9・1 郵便二度地配達廃止

59・1・31 郵便輸送システム改善に伴い郵便物、パ
ス託送廃止

59・2・1 郵便新輸送体系実施（加治木局―溝辺
局―横川局）

3 取り扱い業務

普通郵便物（単位：件）

年	引き受け数
昭50年	四〇六、一六二
55年	四六二、七九四
61年	二九九、七三二

電報取り扱い（単位：件）

年	発信	着信
昭50年	四三二	二七六〇
55年	八〇六	五〇〇七
61年	二〇	六六一一

為替貯金

（単位：千円）

年	通常貯金	積立貯金	定額貯金	為替	振替貯金	年金恩給	保険
昭50年	受 二一六、三五三 払 三〇一、二三九	二〇、二〇八	二三四、五九三	三二、六一〇	一七、一六八	—	九〇、四一九
55年	受 三三七、四二六 払 六〇八、七五四	一六、八二〇	一五八、五四八	五四、六三四	二四、七一〇	八七、四二三	三六、〇〇九
61年	受 三三九、四〇七 払 七〇二、七九六	三六、七五三	一〇〇三、二五〇	三七、七二一	一八三、一〇八	—	一八九、二〇一
		三四、七三五	四一四、四三七	四四、九九三	四二、五三三	一九二、六七一	七六、一三八
		五九、五一	三五五、六九四	二三、一一七	二五一、二七二	—	四〇、二三二
				三八、九二九	五四、九七一	六、〇七三	六〇、二二七

簡易保険

（単位：千円）

年	件数	保険料	保険金額
昭50年	四、一二〇	八、二九八	一、四七八、五〇九
55年	四、二九七	一七、三八五	三、八四一、七八四
61年	四、八八三	三〇、七二一	七、六八六、〇八〇

郵便年金

（単位：万円）

年	件数	掛金	年金額
昭50年	—	—	—
55年	—	—	—
61年	四二	五六	九七四

二 電話・放送

昭和四十七年の鹿児島空港開港時の自動化及び新規加入と昭和五十二年から昭和五十三年にかけての地域集団電話の自動化により、すべて自動即時化され、現在、単独加入者数は、二、九六一人で普及率一〇〇割となっている。テレビについては、一部の地域が難視聴状況にあり、その解消に努めている。有線放送施設は、集落を単位に現在約二〇集落に設置されているが、維持管理や集落の寄り合いが少なくなり、コミュニケーションの機会が失われるなどの問題をかかえている状況であるが、防災、行政伝達の重要性から、現在、社会情勢と本町の実情に合致した放送システムの検討を行っている。

電話加入状況

(単位：台)

総 数	単 独		公衆電話		業務用		特 殊
	加入者	ボックス	店頭	着信	着信	特殊	
三、一〇七二、九六一	五二	六四	五	二二	四		

(加治木電報電話局資料)

テレビ登録台数

年次	カラー	白黒
昭和50年 昭和55年 昭和61年	八九〇 一、四四二 一、九七七	六三〇 八〇〇 〇

(溝辺郵便局)

第三章 河川と治水

川、溜池、治山（保安林）について記述されているが、時代の変遷と河川改修、愛護運動についてその過程を記録することとした。

初版第三章第三節「治水・治山」の項に、韓辺の河

第131表 主要（2級）河川の状況

河川名	起	点	終	点	町内延長 m	左のう 改良済延長 m	推 定 流 量	
							毎秒 t \ s	日 量 t
網掛川	左竹子真幸目原2,998番地先 右〃宮床3001〜34番地先		海に至る		11,770	8,700 (72.5%)	0.06	518
宇曾ノ木川	竹子永尾3003—3番地先		網掛川合流点に至る		6,670	災害復旧主体	0.74	6,395
久留味川	右竹子野坂2,979—2番地先		天降川合流点に至る		13,080	災害復旧主体	0.10	864
崎森川	麓広見4,707番地先		網掛川合流点に至る		3,170	400	0.16	1,382
日本山川	左崎森前原1,712番地先 右〃〃〃1,711—2番地先		海に至る		2,560	2,560 (100%)	0.15	1,296

第132表 網掛川の改修

地区名 区分	竹子 (宮川内)	有川 (有川)	有川 (石原、 十文字)	竹子 (今別府、 計牛)	竹子 (計牛、 石井口)	有川 (下有川)	有川 (石原)	有川 (宮田)	有川 (宮田)	有川～竹子	計
改修年度	昭37	44～45	47～49	49～51	53～54	54～56	58	59	61	47～60	
延長 m	665	1,123	1,275	1,275	1,743	1,620	98	121	76 50	786	8,706
事業名	災害関連	〃	〃	〃	〃	河川局部 改良	災害関連	河川防災	河道改良	災害復旧	

河川愛護運動としては「網掛川を守る会」の設立である。昭和四十九年十月二十一日発足（初代会長・小野義行）、設立と同時に網掛川災害復旧関連事業の広報宣伝、工事の施行についての全面的な協力、関係当局への陳情などのため、網掛川災害復旧関連事業期成協力会が組織されている。五十年九月五日網掛川全域にわたり、役員・町職員二六名が四班に分かれて河川調査を実施（⑥協議＝年一回の敷払いをすること）。昭和五十二年度から河川愛護作業が年二回実施されており、現在まで河川流域全員で定期的に行われている。なお川アシ除去のため薬剤散布を実施している。

第四章 防 災

一 河 川

第133表のとおり。

二 急傾斜地崩壊対策事業

(1) 「急傾斜地崩壊防止工事（補助事業）採択基準」
補助事業の採択基準

事業は地表面が水平面に対しておおむね三〇度を超える角度をなし、その高さが一〇㍎をこえる急傾斜地について、当該急傾斜地の崩壊により被害のおそれのある家屋に関して、移転適地がなく、かつ工事が至大である場合において当該急傾斜地の崩壊により人家密集地区でおおむね家屋一〇戸以上に倒壊など著しい被害を及ぼすおそれのあるとき採択するものとする。

ただし、災害の発生した地区であって、かつ当該事業の施行により効果が多大である場合においては、高

第133表 河川寄州の除去状況

地区名 区分	有 川 (溝 口)	竹 子 (今別府)	有 川 (中 園)	有 川 (十文字)	竹 子 (今別府)	有 川 (森 園)	県要望地区		
							有川	中園	竹子祝儀園 宮脇
延長m	140	300	478	200	200	300	200		200
年 度	昭55	55	59	60	60	61	62		62

(註) 事業名はいずれも「河川防災」

さ一〇（人家などに実際の被害があったものについては五）㍎を超え、おおむね家屋五戸以上のものについても採択できるものとする。

移転適地がない場合とは次の各号の一に該当する場合とする。

① 五〇㍎以内に移転適地がないとき

② 生業依存度がきわめて高く他に移転することが不可能であるとき

③ 解体移転を行う必要があるとき

(2) 採択の限度額

事業採択の最低限度額は一五〇〇万円とする。ただし、前項ただし書の場合は

危険箇所

被物の 状況	人家 戸	公共的建物		公共施設		かけ高と 同距離以 内のかけ 下家戸数	他事業 の区域 指定	危険度 点 数	前回 調査 の有無	要施工 箇所	施工 状況	他事業 の施工 状況
		種類	数 戸	種類	数 箇所							
林地 B100	6			町道	150	5	シラス	A13	有	単	未	
林地 A20 B80	6			"	100	6	シラス	A11	有	単	未	
林地 B100	11			"	100	11	シラス	A12	有	国	未	
林地 A30 B70	11			県道	100	11	シラス	A11	有	国	未	
林地 B100	5			町道	100	5	シラス	A11	有	単	未	
林地 B100	6	公民館	2	"	150	3	シラス	A10	有	単	未	
林地 A30 B70	18	病 院	1	"	200	18	シラス	A12	有	国	未	
林地 A20 B80	11			県道	300	11	シラス	A12	有	国	未	
林地 B100	8			県道 町道	200 50	8	シラス	A12	有	単	未	
林地 B100	12			町道	100	12	シラス	A11	有	他	未	60.60 概
林地 A70 B30	11			県道	200	11	シラス	A12	無	国	未	
一	105	一	3	一	12		シラス 11		有10 無1	国5 単5 他1	未11	概1

第134表 急傾斜地

番号	箇所名	位 置				地 形			オーバー バンク の有無	地 質 種類	表土 の 厚さ	湧水 等の 有無	崩壊 の 有無
		郡市	町村	大字	小字	傾斜度 度	長さ m	高さ m					
1,599	山 下	始良	溝辺	崎森	山 下	45	150	30	無	シラス	a	有	有
1,600	中 崎	〃	〃	麓	中 崎	30	100	20	無	〃	〃	無	有
1,601	瀬間利	〃	〃	有川	瀬間利	30	100	20	無	〃	a	有	有
1,602	門 田	〃	〃	〃	門 田	30	250	20	無	〃	b	有	有
1,603	鳥 越	〃	〃	〃	鳥 越	40	100	20	無	〃	b	有	有
1,604	蔵 園	〃	〃	〃	蔵 園	30	150	30	無	〃	b	無	有
1,605	中石原	〃	〃	〃	中石原	30	200	20	無	〃	a	有	有
1,606	祝儀園	〃	〃	竹子	祝儀園	30	300	30	無	〃	〃	有	有
1,607	計 牛	〃	〃	〃	計 牛	30	200	20	無	〃	〃	有	有
1,608	宮 原	〃	〃	〃	宮 原	30	150	20	無	〃	b	有	有
1,609	石井口	〃	〃	〃	石井口	40	200	30	無	〃	a	有	有
小計	11カ所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 六〇〇万円とする。
補助基本額

「補助基本額」は、受益者負担金または市町村分担金を考慮し事業費から当該相当額を控除した額とする。(昭和四十二年十月二十五日河川局長通達「急傾斜地崩壊対策事業実施要領の適用について」)

補助基本額とは事業費の五分ないし二割(現物供与を含む)に相当する額を控除した額とする。

現物供与を含むとは工事に必要な資器材用地及び補償費などの提供をいうものとする。

第135表 採択基準の要件の推移

区 分 年 度	通 常 対 策 事 業			緊 急 対 策 事 業		
	角 度	高 さ	保 全 人 家	角 度	高 さ	保 全 人 家
42 ~ 46	30度	10m	50戸	30度	10m	30戸
47 ~ 49			20戸			10戸
50			20戸			5戸
51 ~ 54			10戸			
55 ~						
					5m	

(註) 人家などに実際の被害があったもの。

第136表 土石流危険渓流箇所

一連 番号	溪番 号	流 号	溪 流 名 字	流域 面積 (km ²)	危険度	人家 (戸)	耕地 (ha)	公共 施設	標識 設置 年	地域 防災 計画	砂防 設備
988	29-7		栗 下 川 栗下	0.35	A	6	3.1		㊦59		
			栗 下 川 栗下	0.35	A	6	3.1	小学校 1		有	
989	29-8		栗下川支流	〃	0.11	A	13	1.8	㊦60		
			栗下川支流	栗下	0.11	A	13	1.8	小学校 1		有
990	36-8		切明の小川	切明	0.05	A	20	0.1	㊦59		
			切明の小川	切明	0.05	A	20	0.1		有	有
991	29-9		長尾谷川	竹子 木場	1.33	A	14	1.8	㊦60		
			宇曾木川	竹子 木場	1.33	A	14	1.8		有	
992	36-1		にっけ 丹生附の小川	丹生附	0.41	A	10	2.3	㊦60		
			丹生附の小川	丹生附	0.41	A	10	2.3		有	
993	29-6		野 坂 川	野坂	0.27	A	5	2.5	㊦60		
			野 坂 川	野坂	0.27	A	5	2.5		有	
994	29-17		井手段の小川	井手段	0.10	その他	4	0.6			
			削 除 空港騒音移転のため人家なし								

三 台風・豪雨・桜島降灰
の記録

昭和二十年以降の災害状況は第137表のとおり。

第137表 昭和20年以降風水害状況

年月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象	概況	被害	被害額	
				最大風速m/h 雨量mm/h			耕地関係円	耕地関係円
20. 9.17	松崎台風	大	南薩・大隅	(62.7) 42	216		7,913	7,913
20.10.10	阿久根台風	"	薩摩	(51.6) 34.7	220			
21. 8.19	台風12号	中	屋久島・南薩	(54) 36.5	489		18,668	18,668
22. 6.21~	水害 (低気圧)	"	北薩	—	300	5,306,900	53,500	53,500
23. 7. 1~	水害 (梅雨前線)	"	北薩	—			425,736	425,736
23.10. 5~	リビー台風	"	大島	(27.3) 15.2 (29) 22	148			
23.11.18	アグナス台風	小	喜界	(27.3) 15.2 (29) 22	40			
24. 6.20	テラ台風	大	全域	(31.3) 21.4	150~250	10,300,101	1,745,236	
24. 6.26~	水害 (梅雨前線)	大	薩摩・大隅	—	250~400			
24. 7.16~	フエイ台風	中	大島・熊毛・薩摩	(41.3) 24.7 (27.7) 20.1	118	1,455,590	255,110	
24. 8.15	ジュディ台風	大	全域	(27.7) 20.1	250~450	3,581,190	842,800	2,843,146
25. 6.21	水害 (梅雨前線)	中	南薩	—	—	1,015,200	564,400	
25. 7.18~	フレニス台風	"	薩摩	(30.3) 21.4 (31.1) 25.8	200~350	799,200	430,900	
25. 9.13	キジラ台風	"	全域	(30.2) 28.1 (35.2) 19.9 (46.5) 35.1 (33) 19	150~250	5,387,315	573,720	1,569,020
26. 7. 1	クイト台風 (梅雨)	"	熊毛・大島	(30.2) 28.1 (35.2) 19.9 (46.5) 35.1 (33) 19	119	3,050,013	614,530	
26. 8.17~	ペーシ台風	"	大島・薩摩	(35.2) 19.9 (46.5) 35.1 (33) 19	619	166,755	6,000	
26.10.11	ルース台風	大	全域	(46.5) 35.1 (33) 19	168	33,219,097	1,007,600	1,658,130
27. 6.22~	グイナ台風	小	大島・南薩・大隅	(33) 19	311	302,627	12,200	
27. 6.26~	水害 (梅雨前線)	"	薩摩・大隅	—	150~200		229,729	241,929

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象		被害額	耕地関係
				最大風速m/h	概況 雨量mm/h	果全体坪	耕地関係坪
28. 5.11～12	水害(低気圧)	小	北薩	—	170	186,105	39,500
28. 5.31～6. 1	水害(前線)	中	全域	—	150～200	1,779,314	130,000
28. 6. 4～7	ジュテイ台風	小	全域	(31.9) 26.7	80～160	414,202	11,500
28. 6.25～7. 1	水害(梅雨前線)	大	全域	—	—	301,916	99,511
28. 7.16～20	水害(梅雨前線)	中	北薩	—	100～300	2,462,130	604,000
28. 9.22～25	台風13号	中	薩摩・大隅	(24.2) 18.8	98		878,511
29. 8.16～18	台風5号	中	全域	(43.5) 35.6	200～350	4,577,670	204,605
29. 9.12～14	台風12・13号	小	全域	(40.7) 32.6	100～350	5,017,046	120,048
29. 9.24～26	洞爺丸台風	大	全域	(35.2) 26.8	100～250	1,477,795	2,435
30. 6.18～19	水害(梅雨前線)	中	全域	—	150～350	660,464	92,958
30. 7.16～17	台風8号	中	薩摩・大隅	(15.4) 12.5	169	149,485	21,311
30. 9.28～30	台風22号	大	熊毛・大隅	(18.7) 35.6	150～300	18,754,300	46,400
31. 8.16～17	台風9号	中	全域	(40.7) 31.4	120～250	1,432,598	35,625
31. 9. 8～10	台風12号	中	全域	(41.3) 33.4	150～250	4,400,937	77,320
31. 9.25～27	台風15号	大	全域	(42.9) 32.5	150～200	899,389	6,839
32. 7.27～28	水害(梅雨前線)	中	北薩	—	100～300	514,059	38,859
32. 8.19～21	台風7号	中	全域	(45.9) 32.5	100～300	1,800,753	26,815
32. 9. 5～7	台風10号	大	全域	(65) 40	100～300	4,267,891	59,521
33. 9.15～17	台風21号	小	熊毛・大島	(26.7) 22.6	50～100	226,895	35,047

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象 最大風速m/h	概況 雨量mm/h	被害額 果全体千円 耕地関係千円	耕地関係 年合計額千円
34. 6.17～18	水害 (梅雨前線)	中	大島	—	369	428,600	118,250
34. 7.14～15	水害 (梅雨前線)	中	北蔵	—	300	659,005	83,500
34. 8. 6～8	台風6号	中	全域	(43.6) 27	150～300	2,203,662	59,630
34. 9.16～17	宮古島台風	中	全域	(34.2) 21.1	50～100	815,988	34,000
34.10.17～18	台風18号	中	大島	(35.8) 22.5	246	354,363	12,180
34.11.19～20	台風21号	小	大島	(24.8) 16.1	174	4,410	820
35. 6.10～11	台風3号	中	大島・熊毛	(35.5) 24.7	164	54,906	20,000
36. 5.31～6. 2	水害 (梅雨前線)	中	大島	—	312	135,828	52,074
36. 7.29～8. 3	台風10. 11. 12号	中	全域	(42.3) 27.5	100～250	900,903	105,000
36. 9.14～16	第2室戸台風	大	大島・熊毛	(47.1) 35.3	100～300	6,783,984	91,725
37. 5.26～27	風水害 (低気圧)	中	全域	—	100～250	1,210,099	114,230
37. 7.15～17	水害 (梅雨前線)	小	南蔵	—	200	435,969	30,600
37. 8. 9～11	水害 (梅雨前線)	中	薩摩・大隅	—	200	279,116	2,790
37. 8.21～22	台風13号	中	北蔵	(32.6) 19.2	125	1,030,675	56,477
37.11.15～16	台風28号	小	大島	(36) 28.7	387	418,122	74,694
38. 4. ～6.	長雨	大	全域	—	—	9,874,390	130,500
39. 6.24～29	水害 (梅雨前線)	小	全域	—	200～350	701,718	44,444
39. 8. 1～2	台風11号	中	南蔵・熊毛	(17.4) 26.3	80～100	2,860,092	6,250
39. 8.16～21	台風14号	中	全域	(43.6) 30.7	200～500	6,265,064	359,691
39. 9.23～25	台風20号	大	大島・熊毛・大隅	(48.3) 33.5	100～250	12,937,053	158,615
							569,000

年月日～月日	台 風 ・ 豪 雨	程 度	被 害 地 域	気 象 象 徴	概 況	被 害 額	耕地関係
40. 5.25～27	水害 (低気圧)	小	全域	最大風速m/h	雨量mm/h	県全体 千円	耕地関係 千円
40. 6.26～7.	水害 (梅雨前線)	中	全域	—	200	195,385	27,500
40. 8. 4～6	台風15号	大	全域	(49.8) 36.6	300～500	1,710,216	170,000
40. 9.16～17	(前線) 台風24号	中	熊毛・屋久	—	100～200	12,022,319	204,850
41. 9. 9	水害 (低気圧)	小	鹿児島市・南薩	—	362	313,909	44,000
41. 6.19～20	水害 (梅雨前線)	中	北薩	—	111	124,742	29,863
41. 7. 7～9	水害 (梅雨前線)	中	大隅	—	187	710,184	142,800
41. 9.23～24	台風24号	小	大島	(28.6) 14.8	100～300	1,821,424	387,467
42. 5. 5～6	大雨	中	全域	—	80～150	604,901	256,100
42. 6.18	大雨	中	大島	—	80～150	81,103	34,000
42. 7. 1	大雨	中	全域	—	235	578,796	77,900
42. 9.27～28	大雨	小	熊毛・大島	—	100～200	406,644	88,500
42.10.25	台風10号	中	熊毛・屋久	(25) 11.7	80～100	122,450	68,000
42.10.27	台風34号	中	大島・熊毛	(45) 35	100～200	32,579	6,600
43. 5.17～19	大雨	小	大島・大隅	—	145	1,011,725	469,200
43. 6.12～16	大雨	中	全域	—	100～300	47,491	10,000
43. 6.24～7.11	6. 7月大雨	中	全域	—	400～600	181,738	39,000
43. 9.27～28	大雨	小	大隅	—	135	2,398,055	395,000
43. 9.24～25	台風16号	大	全域	(50.1) 37.5	80～250	78,682	4,532
						15,896,840	501,268
							949,800

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象概況		被害額		耕地関係 年合計新TP
				最大風速m/h	雨量mm/h	果全体TP	耕地関係TP	
44. 5.12～13	大雨	小	熊毛・大隅・南薩	—	80～100	54,210	45,000	
44. 6.28～7.12	大雨	大	全域	—	200～800	17,876,908	2,739,000	
44.10. 3～5	大雨	小	大島	—	116	430,954	183,000	
44.10.19～21	大雨	〃	大隅・熊毛	—	100～200	264,572	225,500	
44. 8.20～24	台風9号	中	全域	(53.2) 40	200～300	4,131,585	245,500	3,447,000
45. 5.30～6. 2	梅雨前線	小	大島	—	85	297,360	163,000	
45. 6.18～30	梅雨前線	中	全域	—	300～500	1,011,520	179,000	
45. 7. 4	台風2号	小	大島	40 (78.9)		643,143	89,000	
45. 8.13～14	台風9号	中	全域	45 (45)	150～250	6,142,895	514,000	
45. 8.22～31	台風11号	小	大島			444,000	61,000	1,006,000
46. 5.23	熱帯性低気圧	〃	熊毛・屋久	—	100～250	189,880	115,000	
46. 6. 2～9	6月上旬梅雨前線	中	全域	—	100～200	1,125,153	235,000	
46. 6.19～20	梅雨中期大雨	小	県本土中部	—	300	1,778,757	336,000	
46. 7. 9	7月上旬大雨	〃	県本土南部	—	200	163,907	47,000	
46. 7.18～19	7月中旬大雨	〃	北薩	—	100	123,850	34,000	
46. 7.21～24	山口県地方の大雨	中	北薩	—	556	8,556,264	1,420,000	
46. 8. 3～5	台風19号	大	全域	45	200～500	20,112,968	3,010,000	
46. 8.28～30	台風23号	中	全域	45	100～300	3,226,274	243,000	5,531,000
46. 9.20～22	秋雨前線	小	熊毛・大隅	—	300	320,524	121,000	

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象		被害額	耕地関係
				最大風速m/h	雨量mm/h	県全体千円	耕地関係千円
47. 1.10	雨害	小	大島・熊毛・屋久	—	100～250	684,264	50,000
47. 4.19～	4月中旬(低気圧)	小	北薩	—	128	55,970	30,000
47. 5. 9～	低気圧大雨	小	熊毛・屋久	—	397	55,852	38,000
47. 6. 6～	低気圧大雨	小	大隅	—	375	174,437	45,000
47. 6.11～	九州の大雨	小	全域	—	100～200	2,422,036	437,000
47. 6.17～	九州南部の雨	大	全域	—	100～300	8,138,712	2,185,000
47. 6.26～	九州中部の大雨	中	北薩	—	100～200	1,463,153	241,000
47. 7. 3～	九州の大雨	中	全域	—	100～300	6,705,095	1,318,000
47. 7.25	台風7号	小	大島・大隅	(33.8) 25	300	2,507,136	358,000
47.10. 8～	大雨	小	大島	—	302	88,750	23,000
48. 2.17	低気圧による大雨	小	北薩	—	165	304,927	80,000
48. 5.15～	温暖前線大雨	小	熊毛・屋久	—	233	81,877	23,000
48. 5.26～	5月下旬梅雨前線	小	大島	—	237	141,010	60,000
48. 6.20～	6月下旬梅雨前線	小	大島・大隅	—	161	791,387	230,000
48. 7. 2～	局地的大雨	小	鹿児島・北薩	—	231	473,620	270,000
48. 7.21～	台風6号	小	屋久島・北薩	—	165	33,080	30,000
48. 7.30～	寒冷前線大雨	小	南薩・北薩	—	123	868,681	222,000
48. 8.14～	台風10号	小	大島・屋久	(40.4) 27.6	263	260,865	35,000
48. 9. 5～	秋雨前線	小	鹿児島・南薩	—	180	916,291	160,000
49. 5.29～	5月下旬(低気圧)	小	大島・熊毛	—	170	523,456	180,000
							1,110,000

年 月 日	台 風 ・ 豪 雨	程 度	被 害 地 域	気 象		被 害 額	耕地関係 年合計額 千円
				最大風速m/h	概 況 雨 量mm/h	被 害 額 県全体 千円	
49. 6.13～	奄美地方の大雨	小	大島	—	170	815,480	1,830,000
49. 6.17	大隅半島の大雨	"	大隅	—	133	81,014	
49. 6.27	九州南部地方の大雨	"	鹿児島・熊本	—	131	785,144	
49. 6. ～ 7.	桜島降灰	中	桜島	—	—	2,790,650	
49. 7.11	北薩地方の大雨	小	北薩	—	104	300,291	
49. 7.13～	梅雨前線	中	全域	—	120	1,931,004	
49. 8.17～	台風14号	小	大島・熊本	(32.3) 15.8 (40.1)	132	813,597	
49. 9. 6～	台風18号	中	全域	—	100～150	2,039,507	
49. 9.23～	低気圧	小	北薩	—	104	14,000	
49. 9.26	梅雨前線による九州南部の大雨 寒冷前線南下による大雨	"	熊本・屋久	—	138	44,160	
49.10.18～	低気圧	"	北薩	—	112	122,263	
49.12.10	低気圧	"	南薩	—	177	84,849	
50. 2. 5～	温暖前線	小	大島	—	46	52,755	
50. 2.13～	低気圧	"	大島	—	116	54,772	
50. 4.16～	低気圧	"	全域	—	151	931,051	
50. 4.26～	低気圧	"	大島・鹿児島	—	99	1,581,178	
50. 6.16～	梅雨前線	中	全域	—	200～500	6,895,146	
50. 6.26～	梅雨前線	大	大島・熊本	—	300	7,581,235	
50. 8. 7～	九州南部の大雨	小	北薩	—	130	306,131	

年月日～月日	台 風 ・ 豪 雨	程 度	被 害 地 域	気 象 概 況		被 害 額		耕地関係 年合計額 (円)
				最大風速m/h	雨量mm/h	県全体 (円)	耕地関係 (円)	
50. 9. 25～ 50. 10. 15～ 50. 11. 5～	秋雨前線 秋雨前線 低気圧	小 中 小	熊毛 徳之島 熊毛	— — —	105 384 127	26,240 2,582,413 104,857	5,000 297,000 15,000	4,987,000
51. 5. 25～ 51. 5. 29～ 51. 6. 4～ 51. 6. 10～ 51. 6. 22～ 51. 7. 17～ 51. 9. 7～ 51. 8. ～ 9.	熱帯低気圧 鹿児島地方の大雨 九州南部地方の大雨 九州南部地方の大雨 九州地方の大雨 台風9号 台風17号 桜島降灰	〃 〃 〃 大 大 中 大 中	大島 北薩 大隅・熊毛 北薩 全域 全域 全域 桜島	— — — — — (54.2) (26.0) (40.8) 26.0	158 102 229 105 100～500 300～500 200～500 —	175,455 130,751 598,771 169,578 25,218,682 10,955,404 26,154,297 2,242,805	70,000 3,000 93,000 29,000 8,239,000 1,879,000 1,590,000 78,000	11,981,000
52. 5. 11～ 52. 5. 29～ 52. 6. 2 52. 6. 11～ 52. 6. 15～ 52. 6. 27～ 52. 7. 9～ 52. 9. 9～ 52. 9. ～10.	低気圧 低気圧 寒冷前線 梅雨前線 梅雨前線 梅雨前線 梅雨前線 台風9号 桜島降灰	小 〃 〃 中 小 〃 大 〃	熊毛 熊毛 北薩 熊毛・大島 全域 本土全域 大島 大島 桜島	— — — — — — — (60.4) 39.4 —	168 335 69 304 293 307 388 167 —	45,150 670,400 4,000 663,787 2,511,114 1,101,006 1,962,443 19,615,539 5,039,065	9,000 257,000 4,000 151,000 339,000 641,000 1,039,000 374,000 149,000	2,966,000

年 月 日 ~ 月 日	台 風 ・ 豪 雨	程 度	被 害 地 域	気 象		被 害 額	耕地関係 年合計額 (円)
				最大風速(m/h)	概 況 雨量(mm/h)	果全体 (円)	
53. 5.14 ~ 17	低気圧	小	大島・熊毛	—	192	1,036,804	188,000
53. 6.21 ~ 21	梅雨前線	中	本土全域	—	244	4,986,500	1,660,000
53. 6.21 ~ 24	梅雨前線	小	北薩地域	—	122	39,300	38,000
53. 7.27 ~ 8. 2	台風8号	中	全域	24.0	337	6,164,177	995,000
53. 9.28 ~ 29	秋雨前線	小	全域	—	225	1,100,148	797,000
53. 9.10 ~ 23	桜島降灰	中	桜島	—	—	—	775,000
53.10.11 ~ 15	台風24号	中	大島	—	205	2,145,656	660,000
53.10.28	低気圧	小	種子島	—	125.5	13,000	13,000
54. 3.29 ~ 30	低気圧	小	川内	—	105	100,638	4,000
54. 5.13 ~ 14	低気圧	中	徳之島	—	186	215,330	179,000
54. 6.26 ~ 7. 3	梅雨前線	大	奄美除く全域	—	200 ~ 900	9,803,685	3,210,000
54. 7.16 ~ 17	梅雨前線	中	北薩・大隅	—	180	3,619,190	871,000
54. 9. 2 ~ 3	台風12号	小	大隅南部	—	257	1,346,658	113,000
54. 9.26 ~ 30	台風16号	大	薩摩除く全域	29.7	400 ~ 700	13,260,124	2,266,000
54.10.16 ~ 19	台風20号	小	奄美除く全域	—	200 ~ 400	2,682,990	365,000
54. 1. 1 ~ 12.31	桜島降灰	中	桜島	—	—	5,347,292	104,000
55. 3.28 ~ 29	低気圧	小	熊毛	—	—	82,000	82,000
55. 5.12 ~ 15	低気圧	中	加世田・鹿屋	—	200	602,390	74,000
55. 6.13 ~ 15	梅雨前線	中	本土南部・熊毛	—	322	936,569	353,000

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象		被害額	
				最大風速m/h	雨量mm/h	県全体 千円	耕地関係 千円
55. 7. 5～14	梅雨前線	中	本土全域	—	200～600	4,281,167	1,726,000
55. 7. 27～30	梅雨前線	小	本土北部	—	200～600	957,314	683,000
55. 9. 10～11	台風13号	中	熊本除く全域	30.7	100～300	3,286,720	829,000
55. 10. 13～14	台風19号	中	本土全域	30.0	100～300	9,732,106	475,000
56. 3. 24	低気圧	小	大隅南部	—	199	20,000	20,000
56. 7. 30～31	台風10号	中	本土全域	14.8	100～250	4,823,368	955,000
56. 10. 13～14	低気圧	小	屋久島	—	113	25,000	25,000
56. 10. 30～31	台風24号	中	熊本・奄美	27.4	100～300	4,260,972	1,190,000
56. 11. 2	低気圧	小	本土北部	—	145	117,636	35,000
56. 1. 1～12.31	桜島降灰	中	桜島	—	—	4,644,560	41,000
57. 1. 4～5	低気圧	小	奄美	—	192	181,540	50,000
57. 6. 17～22	梅雨前線	中	奄美	—	377	1,374,427	158,000
57. 7. 5～25	梅雨前線	大	奄美除く全域	—	300～800	12,694,262	3,544,000
57. 8. 9～13	台風11号	小	奄美	16.3	277	561,170	560,000
57. 8. 25～27	台風13号	中	全域	24.3	70～300	5,855,486	936,000
57. 9. 23～25	台風19号	小	熊本・奄美	22.4	100～320	1,181,232	400,000
58. 3. 28～4. 1	低気圧	中	徳之島	—	31	755,417	430,000
58. 4. 7～15	寒冷前線	中	熊本	—	250～550	561,130	280,000
58. 5. 29	梅雨前線	中	奄美南部	—	363	2,423,527	330,000
58. 6. 12～16	梅雨前線	中	本土全域	—	100～550	3,333,961	1,050,000
						耕地関係 年合計額千円	
						5,648,000	

年 月 日 ~ 月 日	台 風 ・ 豪 雨	程 度	被 害 地 域	気 象		被 害 額	耕地関係 年合計額 (千円)
				最大風速m/h	概 況 雨量mm/h	果全体 (千円) 耕地関係 (千円)	
58. 6.19 ~ 21	梅雨前線	大	本土全域	—	100 ~ 350	13,161,767	2,660,000
58. 7.14 ~ 15	梅雨前線	小	薩摩	—	80 ~ 200	250,000	250,000
58. 8.27 ~ 9.21	低気圧・前線	中	本土全域	—	250 ~ 400	13,313,422	60,000
58. 9.27 ~ 28	台風10号	中	大隅	—	255	4,003,081	510,000
59. 5.31 ~ 6. 3	梅雨前線	中	奄美	—	219	1,229,779	440,000
59. 6.8 ~ 16	梅雨前線	中	全 域	—	80 ~ 550	2,106,568	530,000
59. 6.27 ~ 29	梅雨前線	中	本土北部	—	—	2,352,388	750,000
59. 7.17	低気圧	中	薩摩中部	—	84	355,182	120,000
59. 7.29 ~ 30	台風7号	中	本土南部・熊本	23.2	161	1,069,128	60,000
59. 8.18 ~ 21	台風10号	中	薩摩・奄美	31.4	80 ~ 300	2,618,248	373,000
59. 8.25 ~ 26	低気圧	中	本土全域	—	183 ~ 318	5,683,501	1,337,000
59.11. 5 ~ 7	低気圧	小	奄美南部	—	181	418,944	127,000
59. 1. 1 ~ 12.31	桜島降灰	中	桜島	—	—	5,394,464	97,000
60. 5.13 ~ 14	寒冷前線	小	薩摩	—	194	727,889	270,000
60. 6. 3 ~ 4	梅雨前線	中	徳之島	—	80	280,000	280,000
60. 6. 7	梅雨前線	中	屋久島	—	405	61,250	15,000
60. 6.18 ~ 21	梅雨前線	中	奄美除く全域	—	137	1,595,000	1,590,000
60. 6.28 ~ 7. 3	梅雨前線	中	本土全域	—	100 ~ 300	9,446,419	940,000
60. 8. 7 ~ 9	台風8号	小	熊本	20.6	134 ~ 349	1,397,500	60,000

年月日～月日	台風・豪雨	程度	被害地域	気象概況		被害額	耕地関係 年合計額千円
				最大風速m/h	雨量mm/h	果全体千円 耕地関係千円	
60. 8.12～13	台風9号	小	徳之島	29.3	214	643,759	170,000
60. 8.30～31	台風13号	中	全 域	36.5	60～120	30,962,362	370,000
60. 9.22～25	秋雨前線	小	薩摩	—	170	199,090	80,000
60. 1. 1～12.31	桜島降灰	大	桜島	—	—	7,231,475	1,142,000
61. 4.28	地震	小	北薩	—	—	149,140	75,000
60. 6.20～23	梅雨前線	〃	奄美除く全域	—	90～200	1,030,090	175,000
61. 6.28～30	梅雨前線	〃	奄美除く全域	—	90～200	1,238,904	226,000
61. 7. 9～13	梅雨前線	〃	奄美除く全域	—	100～250	2,161,266	469,000
61. 7.16～17	台風8号	〃	奄美	20.4	123	1,335,612	350,000
61. 7.24	前線	〃	薩摩中部	—	183	206,023	40,000
61. 8.25～26	台風13号	〃	徳之島	29.9	129	2,360,051	33,000
61. 8.28	低気圧	〃	始良・大隅	—	112	112,306	35,000
61. 9. 6	低気圧	〃	大隅	—	52	217,377	36,000
61. 9.15～16	秋雨前線	〃	屋久島	—	197	} 604,856	13,000
61. 9.19～20	秋雨前線	〃	奄美除く全域	—	95		117,000
61. 1. 1～12.31	桜島降灰	中	桜島	—	—	5,422,945	70,000
							1,639,000

() 書は最大瞬間風速

第五章 都市計画

一 都市計画区域指定の背景

大方の市町村が、過疎化に悩まされていた昭和四十年代、本町も例外でなく、過疎地域振興緊急措置法（昭和四十五年～五十四年の時限立法）の適用を受ける団体であった。しかしながら、昭和四十七年に開港した鹿児島空港、さらには、五十一年に開通した九州縦貫自動車道の建設など、高速交通体系の整備促進は、本町の様相を一変したといえる。昭和五十年代に入って、さらに拍車がかかり、これらに関連する企業などの進出は、必然的に雇用の増大となり、人口増へと転じた。

また、国分・隼人テクノポリス計画などの社会情勢の変化は、本町においても、第一次産業の減少、第二次産業、第三次産業の増加など、産業形態の変化を余儀なくし、過疎地域振興緊急措置法の適用を受けていた本町も、喜入町とともに、五十五年からは、過疎地域振興特別措置法（昭和五十五年～六十四年の時限立法）の適用

から除外され、過疎化から脱却したところである。

このような背景の中で、本町の未来像を展望した時、人口増への拍車、市街地化の進行、混住社会への進化、高速交通社会の激化などの、いわゆる都市化傾向への変化、さらには住民の健康で文化的な生活と、機能的な活動を確保するための必然的要求として、都市計画を推進することとなり、昭和五十年九月に、鹿児島空港を中心とする六九〇㊦に都市計画区域指定が行われた。さらに、五十九年四月には、追加する形で、六三八㊦が区域指定を受け、現在では麓、北原地区以南の大字麓の一部と、大字崎森の全域を含む全町の約二一㊦にあたる一三二八㊦が、溝辺都市計画区域として指定を受けたところである。

二 これからの都市計画

住民の大局的要求、いわゆる健康で文化的な生活と、機能的な都市活動を確保するため、そしてそれを子々孫々の未来まで創り育てることは、現代に生きる私達の大きな責任であることを念頭に置き、今後の溝辺町の都市

計画を創造しなければならない。

そのためには、あらゆる計画の基盤ともいえる本町の土地利用計画を樹立するとともに、都市計画においても、用途地域の設定など、次のような都市計画事業を導入して、一〇〇年の大計に誤りを見ない誘導をして行く義務があろう。

〔予想される都市計画事業〕

- ① 土地区画整理事業
- ② 街路事業
- ③ 公園整備事業
- ④ 下水道事業

第六章 住 宅

住宅は生活の基盤であり、豊かな人間形成の根源である。町民が等しく健康で文化的な生活を営むためには、それぞれの家族構成やその居住する地域の特性に応じた、適切な規模、構造、設備を有する安全にして居住環境の良好な住宅が必要である。本町の住宅は、空港の開港を機として一般住宅の建設が急速に進んでおり、公営住宅についても年々新規住宅建設が行われている。また住宅の安全対策についても、がけ地近接危険住宅移転事業や県費単独補助治山事業などの補助事業導入によって整備がはかられているので、それぞれについて記述する。

一 公営住宅

本町の公営住宅は昭和二十六年ルース台風による大災害のあと、応急対策として金割団地、今別府地区など簡

第138表 公 営 住 宅 一 覧

建設年度 地区名	33	36	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	60	61	62	63	合計
久保山(崎森)	4			10		10														24
萩の峯(有川)	10																			10
玉 利 (麓)		1				1							1							3
現 王(有川)		10																		10
原 村 (麓)				10	10															20
西原第1、 第2 (崎森)					20															20
松 脇(有川)						6	4													10
陵 北(有川)							6	3												9
麓 原 (麓)								10										1		11
計 牛(竹子) 第1、第2 (麓)									12					16		1				29
陵南 (麓)										16		16	16							48
金割団地 (有川)											24	16							16	56
玉利団地(麓)															24		24			48
石 原(有川)																			8	8
計	14	11	10	20	20	17	10	13	12	16	24	32	16	17	24	1	24	1	24	306

易住宅二〇戸を昭和二十九年までに建設した記録を始めとして、以後三五戸の木造住宅、昭和四十八年から簡易耐火構造建築の時代に入り、昭和五十二年からは中層耐火構造様式となり、今日に至っている。公営住宅建設に当たっては、入居希望者の状況、環境、団地形成など、将来計画を勘案し、逐次整備されてきた。

一方老朽化した金割住宅などの建替え工事が行われるとともに、近代生活にふさわしい住宅供給をめざして、住みよい町づくりに意が注がれている。

昭和六十二年度末現在の公営住宅建設戸数は二八二戸となっているが、昭和六十三年度は金割地区に一種四階建中層耐火住宅一六戸、石原地区に一種二階建耐火住宅八戸の建設がすすめられているので、総戸数三〇六戸になる見込みである。公営住宅の現況は第138表のとおり。

二 一般住宅の新改築と安全対策

空港、九州縦貫自動車道の開設、県道の改良整備、生活用水施設の整備、地域開発の進展等経済活動の活発化や生活水準の向上などに伴い、一般住宅の新改築、マイ

ホーム建設、台所改善などが行われ、近代的な居住環境の整備が進んだ。また住宅の安全対策についても、がけ地近接危険住宅移転事業や人家裏山の治山復旧事業などの補助事業を導入して改善がはかられている。その状況は、次のとおりである。

1 がけ地近接危険住宅移転事業

第139表のとおり、昭和四十六年度この補助事業が創設されて以来、毎年度にわたり一〇二戸の移転が実施されている。

2 県費単独補助治山事業

第140表のように、昭和五十九年度以来、この補助事業によって六戸の人家裏山の安全復旧対策が講じられた。

第139表 がけ地近接危険住宅移転
事業実績 (単位:千円)

年 度	戸 数	事 業 費
46	5	2,500
47	11	5,500
48	14	12,786
49	10	8,150
50	10	12,433
51	7	10,885
52	6	12,900
53	4	7,798
54	5	12,725
55	8	22,907
56	4	12,559
57	3	8,940
58	3	9,033
59	4	12,202
60	3	10,001
61	3	11,950
62	6	13,820
計	106	187,089

第140表 県費単独補助治山事業
実績 (単位:千円)

年 度	事 業 費	実施地区
59	2,116	1
60	6,796	2
61	5,880	2
62	1,830	1
計	16,622	6